

は落してしまいました。

▽食事は大体揃っておそく、たべよう、という意欲がなく、従って途中でみなどこかへ散ってしまつて、一人つれてくると誰かがいなくなる、という工合で、食事の時は世話というものはとても大変でした。

▽幼稚園ではお子さんでも幾分よそゆきになるもので、いたづら、といつてもたいしたことはいないのですが、常識では考えられないような経験をしました。

先づ食事のとき、何か用事があつて室をはなれるようなとき、帰つてみると、自分のお湯を他の人のおべんどうの中に注いでしまつたり、お弁当置場について誰かれもかまわずおはしを出してとりかえてしまつたり、小つみ木を室からもち出して男のお手洗の穴の中に入れてしまつたり、実に何もいえず泣きたいようないたづらをよくしました。

こう考えてみますと、この三才という時期は、大きい方、小さい方と分けることは先生の負担というもの、子供の経験の中というものよりも影響が大きいことを感じました。その次の年に男十人、女十一人が新しく

入つてきましたが、その年令では、前の年とは反対に子供が広い経験（知識的なことより特に社会性の面）を得ることが少ない、ということを感じました。

年長組になつてからは、その差というのものが段々狭くなつてはきたような感じですが、毎日をみてみますと、遊ぶ友達に大きい組の人を選ぶよりも、年中組の大きい組の人たちとよく遊ぶことも、そこに何かあるのではないと思われまふ。

することも大体大きい組の人がしたことを順々にあとをおつてしているようです。このように同年令の人達と余り遊ぶことがないので、意識的にそういう機会をもたせるためそれには先づ先生が親しみを持たなくては、ということと、一組が孤立してしまわないためにという気持で組を交換して三日ほどもつてみました。

その結果としては、お茶の水のように一部屋が一幼稚園というたてまえで設けられた形のところではそういう気持はもつていても一部屋で大体の用が足りるため交流する機会が少い。ということを感じました。こういうことも色々方法が考えられることですが、そ

れはさておいて、このように書いてみますと別にかわつたこともなく、子供の発達上の特質ともいふ分りきつたことばかりになつてしまいました。現在の状態からいつて年令別にしたことと特別に困つた点も悪い点も反対に都合のよい点もあがつてきてはいないようです。前にいつたように子供の経験、先生の負担という点からいへば平均されていた方がやり易いということはたしかにいえまふ。

前にも「その年の傾向その組の傾向」という言葉をつかいましたが、それは私のもつた一番始めの組がとも手がかつたのに反し次の年、更に下の年令の組に於ては必ずしも小さい人の集りの方に手がかかる、ということはいききれない現状にあるからです。

（お茶の水大附属幼稚園）

時差通園教育について

（二部制保育）

安藤哲次郎

特権階級と称する一部の人たち少教の幼児

収容の幼稚園は、そして幼稚園から入学した児童は、こましゃくられた、人ずれ、学校ずれし仕末に困る、と口にされた幼稚園小学校教育も、もはや昔語りの一こまに過ぎない時代になった。

入学前の幼児教育の如何に重要かを痛感する教育現場の先生方の幼児教育に対する研究理解と真実さによって、又父兄の幼児生活と幼稚園教育の理解によって現在公立のどんな幼稚園も収容しきれぬ狭き門を呈する状態。

私は幼稚園も小学校同様希望者の全員を無条件に収容出来るようにありたいと念願している。入園条件として所謂入園試験をする。収

容能力に限度がある以上、こうしたことは方法の如何は別として止むを得ぬことである。しかし私は、このここにも考えさせられる幾多の事実を見聞したので申込順によることにした。が希望者の父兄は「ぜひ入園させたいの一念で申込受付日の前夜より並び、なかには自家用車に乗りつけ、その中で一夜を明かす人もある熱心さ。受付当日の受付開始時午前九時前、午後五時頃には収容人員の二倍以上の列が出来る有様。教育の第一線の現場をあずかる教育者の良心的責任から又学校

経営の責任者として果たしてこのままで放置してよいのだろうかと強く考えさせられた。全員収容するには十分な園舎が必要となる。猫のひたい程の土地すら見当らぬ土地柄。とても園舎の新築、増築などは思いもよらぬ。

又入園出来ぬ幼児たちは日一日と激増する無茶と思われる交通量の危険にさらされながら道路上で遊ぶ。或は小さな路地で不健康な遊びの中に放置されている姿を見てこの幼児たちに入園希望のかねえる園舎があつたら、こんな危険、不健康の毎日を繰返さずともよいのに——と頭一っぱいに考えさせられるのであつた。

私はなんとかしてこのゆきづまりを打開せしめて希望者の内の一年保育児だけでも全員収容してこの状態を打開しようと考えた。しかし現在以上収容能力のない場所柄の今、第一に考えたのは所謂午前組、午後組の二部制の編成であつた。

しかし園児がお弁当を入れた小さなバスケットを持参して幼稚園にかよう喜びと希望を考へて見た時、又園児の在園時間を他の幼稚園と比較して減少しないことを考慮に入れた時に此処に考えさせられたことは昨年度より

実施して来た、「時差通園」である。

即ち第一班（三学級）と第二班（三学級）にわけ、第一班は小学校と同様の時間に、第二班はそれより一時間半おくられて始業。帰宅時間は時差の一時間半により、第二班はそれだけ第一班よりおくられて帰宅することになる。

しかしこのことは、小学校、幼稚園併設の関係からして両者の先生方の、幼稚園教育、小学校教育、特に小学校入学前後の幼児教育に深い連絡と理解と及び真剣な研究が必要とするのでなければ完全な希望の実現は期待されない。

此点私どもは幼稚園、小学校の先生方の校内に於けるの日常生活に区別しないで来ている。幼稚園を主とした研究及び行事でも学校側も全員参加し、小学校側の場合も同様幼稚園は全員一体となり進める。又職員室も職員会も或は児童会、地域別母の会（校外生活指導を主とした）等にも両者一つになつてその指導にあたる——といったように、校内外における幼、小両者の日々の生活指導組織には変りなくしていることが、こうした特例な仕事をしに行くに最も必要な基ばんをなすもの

ではなからうか。

こうした相互の理解と連繋により幼稚園側の一班、二班全員集合した際の不足した教室の遊び場の使用は校庭、屋上、講堂、工作室、理科室、音楽室、図書室等の使用が小学校側との打合せの上に時間割が編まれ、幻灯に、映画に、音楽に、遊びに、工作にと小学校の特別教室は、フルに利用するようにした。小さなバスケットに入れたお弁当を食べるのが最も楽しみらしい園児は、前班組は少し早めに普通教室でとらせる。その間に後班は前述の特別教室を使用して音楽に、幻灯に、紙芝居に、工作、遊びに楽しんでいる。

前班の食事が終ると後班の食事と代って普通教室で行われる。この時刻は小学校側の給食時の終りに相当する。

こうして交互に教室を利用し、小学校との連けいによって教室使用のスケジュールが編まれ、三つの普通教室が二・六名の園児が、六人の先生によって一週間交代に行われ、本園の地域性による幼稚園教育が続けられて行く。かくして園児の在園時間は他の幼稚園とも大差なく園児教育が続けられている。

又先生方の時間的の労力も他園の先生方と

も大した差もなく、これまた毎日続けられている。幸いに幼稚園の桜井、並木、岡山其他の先生たち格別の努力と小学校側先生方の、幼稚園教育並びに現状の校舎状態からしての深い理解と研究、並びに両者一体となつての人の和により特別取上げられる程のまさつも生れず、特例の「時差通園の幼稚園教育」が進められていることは、私にとつてほんとうに嬉しい有難いことである。

父兄側も殊の外にこの意図する私たちのことを信頼と理解を持ってくれている。

むしろ参観に見える先生方が私ども念願とする、ことに反したヒントはずれの御批判を載き苦笑を禁じ得ないこともある。

誰しも不自由のない場と、充実した設備とこいねがわれない者はない。しかし如何様にも解決出来ぬ悪条件の状態を少しでも、こくふくしてゆこうとする情熱と努力が最も望ましいことではなからうか。

要は小学校、幼稚園両者の教育に対する情熱と深い理解と、人の和によって難事とするところも、解決されて行くのではなからうかと私は信じている。

(東京 千桜小学校長・同幼稚園長)

一年保育児と二年保育児との混合編成問題

竹中 京子

大和郷幼稚園に於きましては、二年保育を主体としておりますが、一年保育の希望者も若干ありますので、希望者の中から選考して二年保育児の総数七〇名の四分の一にあたる約二〇名程度の補欠園児を加えて保育致しております、総数一四〇名のうち九〇%迄が会社、学校、官庁等に勤務している家庭より通園しておりますので、二年保育に規定するところも出来るわけですが、幼稚園の所在する環境によっては、家庭の職業や、家族の関係からむしろ一年保育が主流となることも大いにあり得ますので、組の編成問題に就きましては、いろいろ苦心、研究を要するところであろうかとおもいます。最も進んだ方法の一つとして、生活年令によらず徹底したグループ